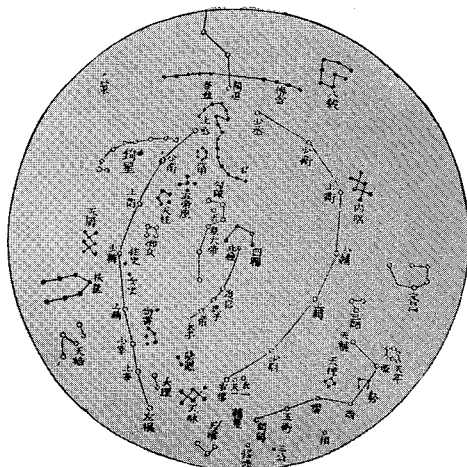


中国星座名義考(その1)

大崎正次*

中国の星座は、現代天文学界からみると、もはや死滅した古くさい中国天文学のしかばねにすぎない、と思われるかもしれない。それは今では、天文学書の中から完全にとりのぞかれ、その名称さえまったく忘れ去られてしまった感さえある。しかし長い伝統をもつ中国の天文学は、歴史の中になお厳然と存在しているし、近ごろでは新しく見なおされ、世界の科学史の中で、改めて再評価されつつある。中国の星座も、今でこそ過去の遺骸としてしかあつかわれぬが、中国では2000年以上、朝鮮・日本でも1000年以上にわたって、かつては大空に高く仰がれたものであった。それは中国の古典が残る限り、それと共に伝えられ、中国の古代天文学が残した膨大な天文記録が、現代天文学にとっても貴重な資料として利用される限り、これからも長く生き続けてゆくことであろう。中国暦法については、先学のたゆまぬ研究によって、その全貌がようやく明らかにされてきたが、中国の星座については、ほとんど手がつけられず、まだみずてられたままにある。本稿はそのような、中国天文学の遺産のひとつである中国の星座の名称について、簡単ながらその語義を解説したものである。浅学のため、不明のものを残し、多くの誤りがあると思われるが、ご叱正たまわれれば幸いである。

中国の星座の歴史は極めて古く、おそらく戦国時代の前4世紀中頃にはすでに成立しており、秦・漢時代(200 B.C.~200 A.D.)に至ってその数を増し、その後、所属・配列に多少の変遷もあったが、六朝時代の中ばごろ(300 A.D.)星座の名称がほぼ定着し、隋唐時代の8世紀には、所属・配列の順位も確定したものとされる。本稿は、その確定された中国の星座を、集大成した形で今に伝える、宋史天文志によって配列したものである。星座名の右の数字はその星座に属する星数を意味する。その語義は、星座の名称が生れた原点にあたる星座名の文字に即してこれを求め、後代その文字から離れた二次的な意味については、()の中に記しておいた。これは中国の星座が、やがて原点から離れ、2転、3転して別の意味をもつものが多かったことを、あわせて理解していただきたかったからである。また中国の星座は、本来天文占とともに生れたものであるの、それを離れては意味がないため、それぞれの星座が天文占とどのよう



紫微垣(北天) 蘇頌星図(新儀象法要所収)

なかかわりがあるかを、[]の中に記しておいた。[…を主さどる]とは、その星座が……を主として占う、…の占いに関係がある、の意味である。ただし、本稿に記した(転義)、「天文占とのかかわり」は、現存の文献に伝えられるものすべてを記したのではなく、そのほんの一部にすぎない。また本稿に記した宋史天文志所掲の星座名は、その後も各時代を通じて用いられ standard な名称になるので、その他のおびただしい星座の異名についてはふれなかった。さらに、ここではひとまず星座名にとどめて、これまた膨大な数にのぼる個有名にもふれなかった。ついでに言えば、中国の星座名・個有名をあわせると、それは実に750をこえる数になる。

なお中国の星座について、最も深く関心をもたれる同定について一言記しておきたい。それは中国の星座が、ヨーロッパから伝来した現行星座のどれとそれが重なるか、ということである。本稿の読者からも、必ずそれを要求されるであろうという推測から、筆者としては、いま実は心すすまないけれども、その求めにこたえるために、同定星を一応記しておいた。しかしこれはあくまで附録的記載であって、先人の研究の成果を、ただ仲継ぎして紹介したにすぎない。中国星座の同定の問題は、中国星座の研究において、たしかに最も意義のあるテーマではあるが、そのきめ手に困難なことが多く、なお将来の研究をまたねばならぬものが多く含まれている。ここでは筆者のせめてもの心づかいとして、同定について異論のあるものについては、その異説をそのままに並記しておいた。同定といっても、おおまかなものであり、くわしくは下記の書によられたい。

中国の星座の解説の末尾に示した現行星座と星名は、欽定儀象考成所載の星表にもとづいて、土橋八千太・Chevalier 両氏によって作製された同定星図(石氏星經の研究所収)と、現在ひろく普及され、星名の記入も多

* Shōji Ōsaki: Names of constellations in ancient china and their meanings.

い Norton, Star Atlas. 1950. とを比較照合し, Norton 星図所掲の星座名・星名をまず記し, それと異説あるものは / の次に並記した. 中国星座の同定について, 最も著名なのは Schlegel 氏の著書である. 筆者はこの書も参照はしたが, Schlegel 氏の同定については, 異論が甚だ多いので, 記事の錯綜をさけるため, 本稿では, Schlegel 氏の同定には一切ふれなかった. 同定について参照した文献は下記の通りである.

Schlegel : Uranographie Chinoise. 1875.

土橋八千太: 欽定儀象考成による同定星図. 1911.

上田 穰: 石氏星経の研究. 1930,

小川清彦: 哭星の同定について (天文月報 25 巻 7 号) 1932.

〃 : 支那星座管見 (天文月報 26 巻 6・7 号) 1933.

〃 : 続支那星座管見 (天文月報 27 巻 8・9・10・11・12 号) 1934.

藪内 清: 宋代の星宿 (東方学報・京都第 7 冊) 1936.

〃 : 中国の天文暦法. 1969.

三 垣

- 1 紫微垣^{シビエン} 宇宙万有の主宰者である天帝の住まう紫微宮城のあるところ. 紫は最高位の色をあらわし, 宮城を紫禁, 紫闕などともいう. 微は奥深い, 垣は堅くかためられた土の垣根によって区切られるの意味. 天子は南面するといわれ, 南に輝く太陽に対して, 堂々と向いあつて坐るところから, 宮城は北のはずれに位置する. [天帝の命令を主さどる]

東蕃 8 宮城をかこむ東側の城壁. 各星は文武官の名をもち帝室の藩屏の意味をもつ. 一竜 $\iota \cdot \theta \cdot \eta \cdot \zeta \cdot \upsilon \cdot 73$ ・ケフェウス π ・カシオペア 23/ χ (藪)

西蕃 7 同じく西側の城壁一竜 $\alpha \cdot \kappa \cdot \lambda$ ・大熊 24・きりん 43・ γ .
- 2 北極 5 廻転する天の中心. 各星は帝・太子・后妃等帝王の家族にあたる. [日・月・5 惑星を主さどる]—小熊 $\gamma \cdot \beta \cdot 5 \cdot 4$ ・きりん Σ 1694.
- 3 北斗 7 北天にかかるひしゃく. 宗廟—先祖をまつるおたまやにそなえる酒をくむ器である. 第 1~4 星を璇璣とよぶ. 斗 (ます) である. 第 5~7 星を玉衡とよび, 杓 (え) を形づくる. 天には北斗のほか, 南斗 [No. 119], 斗 [No. 59] の 2 斗がある. 北斗はまた (帝車. 天帝の乗車) である. 第 6 星の傍にある小星は輔星とよび, 宰相をあらわす. [北斗七星は左廻りに日に 1 回転し, その動きで四時の季節を定め, 五行の変化をととのえる. 各星はそれぞれ天・地・人・五行を主さどる]

- 大熊 $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta \cdot \varepsilon \cdot \zeta \cdot \eta$. (輔) 大熊 81.
- 4 勾陳^{コウチン} 6 また鈎陳と記す. 紫微宮を守るかぎのよう曲った陣立て. (天帝の護衛將軍. 天帝の妃) [後宮を主さどる]—小熊 $\theta \cdot \zeta \cdot \varepsilon \cdot \delta \cdot \alpha$ (Polaris).
- 5 天皇大帝 1 天界の最高の統治者, 天帝と同じ. [群靈を主さどる]—ケフェウス 39H (藪).
- 6 四輔 4 天帝の前後左右にある 4 人の輔佐官. 前疑・後丞・左輔・右弼をいう. (不明)
- 7 五帝内坐 5 五帝の宮中での坐席. [No. 37] 五帝とは, 伝説上の帝王で, 蒼帝・赤帝・黄帝・白帝・黒帝をさす. また黄帝・顓頊・嚳・堯・舜をさすこともある. —ケフェウス 34H (藪).
- 8 六甲^{ロクカウ} 6 序数をあらわす 60 干支のうち, 甲のつく数. 甲子・甲戌・甲申・甲午・甲辰・甲寅をさす. 忍術に似た奇門遁甲方術のひとつ. (陰陽・季節を分ち, 民に農事の時を教えること)—ケフェウス 44H (藪).
- 9 柱史 1 柱下史. 天下の図書史籍を管理する官. 老子がその職にあつたので, 老子をさすこともある. [過失の罪を記録することを主さどる]—竜 ϕ .
- 10 女史 1 宮中に仕える身分の低い女官. 皇后・夫人の言動その他, 後宮の記録にあたる. 女の奴隷で文字に明るい者をもってこれにあてた. 一説には良家の子女をもってあてたとする. [時計を主さどる]—竜 ϕ .
- 11 天柱 5 天を支える柱. 古伝説によると, 顓頊と帝位を争った共工が怒って, 不周山に触れたために, 天を支える柱を倒し, 天と地をつなぐ大綱 [No. 177] を絶ち, 西北の天が傾き, 地は東南に低くなって, 大河はみな東流して海に注ぐようになったという. [政治と教化を主さどる]—ケフェウス κ /竜 77 (藪).
- 12 女御 4 御女とも記し, 御妻ともいう. 後宮—天子の家族の住む奥御殿に仕える女官で, 天子の食事・御寝に奉仕する. 古代の宮廷では, 3 夫人・9 嬪・27 世婦・81 御妻の制度があつた. 一竜 τ . 50. χ /59 (藪).
- 13 尚書 5 天子の秘書官で, 宮中一切の政務にあたる. 竜 27・15・18・19.
- 14 大理 2 司法長官. [No. 271] [裁判・刑罰を公平にすることを主さどる]—Boss 4021 (藪).
- 15 陰徳 1 陽徳 1 太陰一月と太陽一日の徳. 恩恵. [危急に際し, 恩恵を与えることを主さどる]—(陰) Boss 3893 (藪). (陽) 不明.
- 16 天牀^{シヤウ} 6 天子の休息睡眠をとる寝台. [天子の休息, 寝所を主さどる]—Boss 3827 (藪).
- 17 華蓋 7 杠 9 天子の乗車の上をおおう飾り笠, 杠は

- 横木のことで、華蓋を支える柄をさす。(華蓋)
カシオペア $\omega \cdot \phi \cdot 43 \cdot 31/i$ (藪). (杠) カシオ
ペア 50・48・42.
- 18 伝舎⁹ 宿駅の旅館. 官営で官人が利用する. [北方
民族の中国に入国することを主さどる]—きりん
1H (藪).
- 19 八穀⁸ 主要な8種類の穀物. 黍・稷・稲・粱・禾
・麻・菽・麦または稲・黍・大麦・小麦・大豆・
小豆・粟・麻をさす. [穀物の収穫を主さどる]—
馭者 $\delta \cdot \xi \cdot$ きりん $\beta \cdot 7$.
- 20 内階⁶ 宮廷内の図書室に上る階段—大熊 $o \cdot \tau \cdot \pi$
/2A (藪).
- 21 文昌⁶ 神名. 文昌帝君のこと. 後世学校にまつら
れ, 文学・文章の神として科挙—高等文官任用試
験の受験者に尊崇された. 天の6つの官庁. [天
道を集計することを主さどる]—大熊 23・ $\nu \cdot \phi \cdot$
 $\theta \cdot 15 \cdot 18/o \cdot f$ (藪).
- 22 三公³ 3人の最高の天子の補佐官. 歴代の身分順
位では天子につぐ高位にあった. 三公とは, 太師
・太傅・太保, または司馬・司徒・司空をさす.
[徳によって教化し, 日月5惑星の運行を調整し,
陰陽を調和することを主さどる]—獺犬 24・21.
- 23 天牢⁶ 天の牢獄. (貴人の牢獄)—大熊 $\omega \cdot 57 \cdot 47$
・56・49/37・44 (藪)/大熊 36・37・39・43・44
・60 (上).
- 24 勢⁴ 外腎すなわち睪丸のこと. 宮刑—去勢の刑罰
をうけ, 後宮で女官の監督その他の雑用に使役さ
れる宦官 [No. 58]—小獅子 $\beta \cdot 30 \cdot 37 \cdot 46$ /Boss
3007 (藪).
- 25 天理⁴ 天の道理. 万物が調和を保つ条理. [貴人
の牢獄)—大熊 66.
- 26 相¹ 百官を率いて政治を行う宰相. [No. 270]—
獺犬 5/大熊 χ (上藪).
- 27 太陽守¹ 太陽の守護神. [大将・大臣の象徴. 武備
をととのえ, 宮殿・諸門を守り, 不慮のできごと
に備えることを主さどる]—大熊 χ /大熊 ψ (上).
- 28 内厨² ^{ナイチユウ} 宮中内の飲食をまかなう調理場. [No. 29,
261]—竜 8・9.
- 29 天厨⁶ 天界の調理場. [No. 28, 261] [大宴会の調
理を主さどる]—竜 $\delta \cdot \epsilon \cdot \rho$.
- 30 天一¹ ^{テンイチ} 天乙ともかく. 上帝・天帝と同じ. 天界最
高の至上神. [戦闘・人の吉凶を主さどる]—竜 10
/i (藪)/竜 8 (上).
- 31 太一¹ 太乙・泰一ともかく. 意味は天一と同じ.
前漢の武帝時代に泰一信仰が流行した. [十六神
に命じて, 風雨水旱, 戦争・革命・饑饉・病氣・
災害のある国を治めさせることを主さどる]—竜
- 9 (上)/Boss 3539 (藪).
- 32 天槍³ 天軍の槍. (天界の武備)—牛飼 $\iota \cdot \kappa \cdot \theta$
- 33 天楯⁵ ^{テンケン} 楯は長い鉄棒の武器. (天子の行幸の際の前
衛) [紛争や刑罰, ひそかに私兵をたくわえる者を
監視し, 非常の事態に備えることを主さどる]—ヘ
レクレス $\iota \cdot$ 竜 $\gamma \cdot \beta \cdot \nu \cdot \xi$ /竜 μ (藪).
- 34 天戈¹ ^カ 戈は戦車の上で闘う柄の長いほこ. また元
戈・玄戈ともかく. 上記天槍・天楯・天戈みな非
常の事態にそなえる天界の武備を意味する. [北
方民族の軍隊を主さどる]—牛飼 ι .
- 35 太尊¹ ^{ヌイツン} 第1代の皇帝の尊称—大熊 ϕ /Boss 2853.
- 36 太微垣 太は尊称. 微は奥深い, 垣は垣根の意. 天
帝の南宮. (天帝の庭園. 五帝の坐席. 十二諸侯の
官庁) [法により訴えを公平に裁き, 役人の昇進
を監督し, 徳を施すことを主さどる]
東蕃⁵ 東側の城壁—乙女 $\eta \cdot \gamma \cdot \delta \cdot \epsilon \cdot$ 髪 α .
西蕃⁵ 西側の城壁—乙女 $\beta \cdot$ 獅子 $\sigma \cdot \iota \cdot \theta \cdot \delta$.
- 37 内五帝坐⁵ 五帝内坐 [No. 7] と同じ. 太微宮中で
の五帝の坐席. 中央に黄帝, 東方に蒼帝, 南方に
赤帝, 西方に白帝, 北方に黒帝の坐がある—獅子
 $\beta \cdot 95$.
- 38 内五諸侯⁵ 宮中において天子に仕え, 地方の任国
に赴かない5人の諸侯—髪 39・36・27・24・11/
6 (藪).
- 39 太子¹ 天子・諸侯の嫡子—長男—獅子 93.
- 40 従官¹ 天子側近の侍従官. [No. 107] [病気の治
療を主さどる]—獅子 92.
- 41 幸臣¹ 天子のお氣にいりの臣. 寵臣—髪 5.
- 42 内屏⁴ 門の内側におくへい. [No. 192]—乙女 $\xi \cdot$
 $\nu \cdot \pi \cdot o$.
- 43 郎位¹⁵ 天子側近の宿衛官. [No. 107] [天子の護
衛を主さどる]—髪 15・14・16・13・17・12.
- 44 郎将¹ 上に同じ. 官名. [武器を検閲し, 武備をそ
なえることを主さどる]—髪 31/ α (藪).
- 45 常陳⁷ ^{ジョウチン} 戦術上普通に用いられる陣立て. (天子の宿
衛に武勇の兵士をもってあたらせること)—獺犬
 $\alpha \cdot \beta \cdot 6 \cdot$ 大熊 67/Boss 3195 (藪).
- 46 九卿内坐³ 宮中での9人の政務長官の坐席. 宮中
での順位は天子・三公の次にある高官である. 少
師・少傅・少保・冢宰・司徒・司空・司馬・司寇
・宗伯をさす. —乙女 $\rho \cdot 32 \cdot 31$.
- 47 三公内坐³ 宮中での三公 [No. 22] の坐席—乙女
37/35 (藪).
- 48 謁者¹ 天子と謁見者・訪問客の間に立ち, 取次や
接待をする官—乙女 16.
- 49 三台⁶ 三公 [No. 22] と同じ. 地上の三公を天界
では三台というとする説もある. 上台²・中台²・

- 下台₂に分れ、それぞれ司命・司中・司禄とする説もある。〔それぞれ寿命・祖先の廟・軍隊を主さどる〕—上台—大熊 $\kappa \cdot \iota$ 、中台—大熊 $\lambda \cdot \mu$ 、下台— $\nu \cdot \xi$ 。
- 50 長垣₄ 北方蛮族の侵入にそなえるための長いとりで。長城。〔国境及び北方民族を主さどる〕—獅子 46・52・53・48/小獅子 41・獅子 51・K (小)。
- 51 少微₄ 士大夫の身分。士大夫とは天子・諸侯の臣下で、その順位は卿・大夫・士とならぶ—獅子 67・54・小獅子 41・獅子 51/小獅子 42・44 (小)/獅子 60b (藪)。
- 52 靈台₃ 天文象象を観望する天文台。〔天文雲気を観望し、瑞兆を察し、天変地災を占うことを主さどる〕—獅子 $\chi \cdot 59 \cdot 58$ 。
- 53 虎賁₁ 天子の行列の前衛・後衛にあたり、宮中にあつては宿衛して、その身辺を護衛する武官・虎賁の名は、虎の走る勇猛な姿、またその武官が虎の毛皮や虎の文様をつけて威容を示すところから由来する。〔天子の侍従武官を主さどる〕—獅子 72。
- 54 明堂₃ 天子が祖先の靈をまつり、諸侯や高官と謁見し、典礼を行い、政務をとる宮殿をいう。政教を明らかにする殿堂の意—獅子 $\nu \cdot \tau / \rho$ (小)。
- 55 天市垣 天帝の治下にある天界の市場。
東蕃₁₁ 市場を守る東側の城壁—蛇遣 $\eta \cdot \epsilon \cdot \xi \cdot \epsilon$ ・蛇遣 $\nu \cdot \epsilon \cdot \theta \cdot \delta$ ・驚 $\zeta \cdot \epsilon \cdot \epsilon$ ・ヘルクレス 113・ $o \cdot \mu \cdot \lambda \cdot \delta$ 。
西蕃₁₁ 同じく西側の城壁—蛇遣 $\zeta \cdot \epsilon \cdot \delta \cdot \epsilon$ ・蛇 $\epsilon \cdot \alpha \cdot \delta \cdot \beta \cdot \gamma$ ・ヘルクレス $\kappa \cdot \gamma \cdot \beta$ 。〔両者あわせて、度量衡、多くの人を集めることを主さどる〕
- 56 帝坐₁ 天子の坐席。玉座。〔No. 94〕(天の庭園)—ヘルクレス α
- 57 候₁ 天文雲気陰陽などをうかがうこと—蛇遣 α 。
- 58 宦者₄ 宦官と同じ。〔No. 24〕—蛇遣 37・e/ヘルクレス 60 (藪)。
- 59 斗₅ 10升をいれるます。ひしゃく。〔度量衡を主さどる〕—ヘルクレス $\omega \cdot \epsilon \cdot \epsilon$ 2007・45・ヘルクレス 29・28/蛇遣 ι (藪)。
- 60 斛₄ 10斗いれるます。〔度量衡・銭貨・計算を主さどる〕—蛇遣 $\iota \cdot \kappa$ ・ヘルクレス 47・43/蛇遣 21 (藪)。
- 61 列肆₂ 並んでいる商店。肆とは物を並べて売ること。〔金玉宝石を主さどる〕—蛇 ρ ・蛇遣 λ 。
- 62 屠肆₂ 牛・豚・羊・鶏などを売る店。肉屋。〔屠殺・肉料理を主さどる〕—ヘルクレス 109・106/98 (藪)。
- 63 車肆₂ 車を売る店。牛車・馬車・手車などあるが、車は古来中国では最も重要な乗物であった。〔百貨を主さどる〕—蛇遣 $\nu \cdot 20$ 。
- 64 宗正₂ 皇族を監督する官。皇族をもってこれにあつて重要な官であった—蛇遣 $\beta \cdot \gamma$ 。
- 65 宗人₂ 天子と血縁関係にある一族。皇族。礼儀・祭祀を職掌とする官。〔祖先の祭祀を主さどる〕—蛇遣 66・67・68・70。
- 66 宗₂ 同じ祖先から分れた同族の本家。古代中国では本家—大宗、分家—小宗の別が社会生活の上できびしかった—ヘルクレス 110・111/蛇遣 72・71 (上・藪)。
- 67 帛度₂ 布の長さをはかるものさし。〔度量衡、商品の売買を主さどる〕—ヘルクレス 95・102。
- 68 市楼₆ 市場を監督する市役所。〔市場の売買を主さどる〕—蛇遣 $\mu \cdot \epsilon \cdot o \cdot \tau \cdot \nu$ 。
- 69 七公₇ 天帝を補佐する三公の象徴 (No. 22 参照)。七とは七政を意味し、日月五惑星の運行に節度あらしめようとする天帝の謀議にあずかる臣の意。〔七政を主さどる〕—ヘルクレス 42・ $\tau \cdot \rho \cdot \chi \cdot \nu$ ・牛飼 $\nu \cdot \mu \cdot \delta$ /牛飼 $\gamma \cdot \beta$ (藪)。
- 70 貫索₉ 銅銭をまとめて運搬に都合のよいようにするため、銅銭の中央の孔に貫き通す糸繩。貫は通貨の単位で、銅銭千枚にあたる。(天平。身分のいやしい者の入る牢獄)〔法律を主さどる〕—冠 $\pi \cdot \theta \cdot \beta \cdot \alpha \cdot \gamma \cdot \delta \cdot \epsilon \cdot \iota \cdot \rho$ /蛇 π (藪)。
- 71 天紀₉ 天の綱紀。天の道理。日月星辰の運行の秩序と調和。〔法律、訴訟を主さどる〕—冠 $\xi \cdot \epsilon$ ・ヘルクレス $\zeta \cdot \epsilon \cdot 72 \cdot \theta$ /冠 $\xi \cdot \sigma$ (藪)。
- 72 女牀₃ 婦人の寝台。(後宮の侍女)〔宮中の女性のことを主さどる〕—ヘルクレス $\pi \cdot 69 \cdot \rho$ 。

二十八宿

- 73 角宿₂ つの。二十八宿の第1宿。四獣のひとつである東方を守る青竜=蒼竜の角にあたる。(左角は天田、右角は武將)〔左角は司法、右角は戦争を主さどる〕—乙女 α (Spica)・ ζ 。
- 74 南門₂ 天界ま南のはしにある外門。〔敵の軍隊にそなえることを主さどる〕—ケンタウルス $\epsilon \cdot \alpha / \xi$ (藪)。
- 75 庫楼₁₀ ものみやぐらのついている倉庫。(戦車をおさめた倉庫)—ケンタウルス $\zeta \cdot \eta \cdot \theta \cdot d \cdot \gamma \cdot \delta / \iota$ ・南十字 δ (藪)。
- 76 柱₁₅ はしら—ケンタウルス $\nu \cdot \iota \cdot \epsilon \cdot \tau \cdot \phi \cdot h \cdot k \cdot l \cdot \iota$ 。
- 77 衡₄ 物の重さをはかるはかり。〔軍隊を布陣することを主さどる〕—ケンタウルス $\nu \cdot \mu \cdot \rho \cdot \chi$ 。

- 78 平₂ かたよらないで公平なこと。〔裁判を公平に行うことを主さどる〕—海蛇 $\gamma \cdot \pi$ 。
- 79 平道₂ 平らな道。人や馬、車が通りやすい道路—乙女 $\theta \cdot 82/66 \cdot 74$ (小・藪)。
- 80 天田₂ 祖先の霊に供えるために天帝自ら耕作する耕地。籍田。〔No. 130〕〔首都の近傍の地域を主さどる〕—乙女 $\sigma \cdot \tau/\theta$ (藪)。
- 81 天門₂ 天帝の住まう紫微宮城〔No. 1〕に入る門。死者の霊が天に上って天界に入る門。虎や豹がこれを守っている—乙女 $53 \cdot 69/61 \cdot 89$ (小)。
- 82 進賢₁ まだ世に知られていないすぐれた人物を天子に推挙すること。賢とは徳行学芸に秀でた人物をいう。〔貴族・大臣がかくれている人物を推挙することを主さどる〕—乙女 k/θ (小)。
- 83 周鼎₃ 周の王室に伝えられる九つの鼎。鼎は靈威をもち、天子の位の継承を象徴する宝器である。〔流亡、一定の住居がなく、あちこちをさまよい歩く流れものを主さどる〕—髮 $\beta \cdot 37 \cdot 41$ /牛飼 6 (藪)。
- 84 亢宿₄ くび。二十八宿の第2宿。青竜のくびのどにあたる。(天子の内朝—天子が政務をとる内御殿)〔国中から上奏されることからの総括し、訴訟を裁き、臣下の功績を記録することを主さどる〕—乙女 $\kappa \cdot \iota \cdot \varphi \cdot \lambda/\nu$ (上)。
- 85 大角₁ 青竜の大きなつ。 (天帝の坐席。天の棟木)〔綱紀を肅正することを主さどる〕—牛飼 α (Arcturus)。
- 86 折威₇ 勢いの強いものを抑えること。〔斬殺、軍隊内の犯罪を断つことを主さどる〕—海蛇 $51 \cdot 54$ ・天秤 σ /Boss 3632 (藪)。
- 87 左摂提₃ 右摂提₃ 摂提とは天神の名。盾—タテ。天帝を左右から擁護すること。(季節を定め、吉凶をうかがうことを主さどる)—(左) 牛飼 $o \cdot \pi \cdot \zeta$ 。(右) 牛飼 $\eta \cdot \tau \cdot \nu$ 。
- 88 陽門₂ 宮城の東南方にある門。〔要塞を守り、外国の侵入を防ぐことを主さどる〕—ケンタウルス $b \cdot c$ /海蛇 π (藪)。
- 89 頓頑₂ 不明。(刑罰を執行する獄官)〔囚人の情状を考えて、偽りの供述を察知することを主さどる〕—ケンタウルス $1 \cdot \varphi$ /天秤 $3G$ (藪)。
- 90 氐宿₄ そと。ねもと。二十八宿の第3宿。青竜の胸のあたりにあたる。(天帝の住まう宮殿・正妃、側室の住む部屋。天帝の休息部屋)—天秤 $\alpha \cdot \iota \cdot \gamma \cdot \beta$ 。
- 91 天乳₁ 子を育てるちち。(甘露、甘酒、乳製品、餡のような味のよいもの)—蛇 μ 。
- 92 騎陣將軍₁ 騎兵隊の総司令官—狼 κ 。
- 93 招揺₁ ひらひらとゆれる儀装具。旗の上などにつける。矛楯、たて。〔北方民族の軍隊を主さどる〕—牛飼 γ/A (藪)。
- 94 帝席₃ 天帝の坐席〔No. 56〕〔宴会の酒盛を主さどる〕—牛飼 $12 \cdot 11 \cdot 9/\xi$ (藪)。
- 95 亢池₆ 船で水をわたること。〔水路、船の往来、送迎を主さどる〕—牛飼 $20 \cdot 14 \cdot 15 \cdot 18$ 。
- 96 騎官₂₇ 騎兵。(天帝の侍従兵)—狼 $\gamma \cdot \delta \cdot \text{ケンタウルス } \kappa \cdot \lambda \cdot \varepsilon \cdot \mu \cdot \pi \cdot o \cdot \alpha$ 。ケンタウルス c^1/κ (藪)。
- 97 梗河₃ 泥土でふさがり、船の通れなくなった河。(天のほこ)〔北辺の軍隊・葬儀を主さどる〕—牛飼 $\varepsilon \cdot \sigma \cdot \rho$ 。
- 98 車騎₃ 戦車と騎兵。〔軍隊の行列を主さどる〕—狼 $\zeta \cdot \rho \cdot \sigma$ 。
- 99 陣車₃ 戦車。〔戦車を主さどる〕—海蛇 $58 \cdot 59$ ・ケンタウルス f 。
- 100 天輻₂ 車の中心にあたるコシキと車輪を放射線状につなぐ部分。〔天帝の乗りものを職掌とする官を主さどる〕—天秤 $\nu \cdot \tau$ 。
- 101 房宿₄ へや。二十八宿の第4宿。青竜の腹にあたる。(明堂〔No. 54〕。四輔〔No. 6〕。天帝の四頭立ての馬車。天の馬屋)〔馬車、扉の開閉を主さどる〕—蝸 $\delta \cdot \rho \cdot \beta \cdot \pi$ 。
- 102 鍵閉₁ 戸じまりをするかぎ。鍵はさしいれる部分。閉は受けいれる部分。〔No. 103, 123, 127〕〔かぎを主さどる〕—蝸 ν 。
- 103 鈎鈴₂ かぎ。鈎は曲ったかぎ。鈴は錠前。(天門にかけるかぎ)〔天の出入口にかぎをかけ閉すことを主さどる〕—蝸 $\omega^{1 \cdot 2}$ 。
- 104 東咸₄ 不明。(部屋の戸。日月五星の通り道)—蛇遣 $\varphi \cdot \chi \cdot \psi \cdot \omega$ /蛇遣 $\rho \cdot \omega \cdot \text{蝸 } 24$ (小)/蝸₁₉ (藪)。
西咸₄ 不明—蝸 $\xi \cdot \text{天秤 } 48 \cdot \theta \cdot \eta$ /蝸 ψ (小)。
- 105 罰₃ 罪のむくい。〔金銭をおさめて罪をあがなうことを主さどる〕—蝸 $18 \cdot 11$ ・天秤 49 /蝸 $\psi \cdot \chi$ ・蛇遣 φ (小・藪)。
- 106 日₁ 太陽。太陽の精霊—天秤 κ /蝸 A (小)/蝸 1 (藪)。
- 107 従官₂ 天子の侍従官。〔No. 40〕〔病氣と祈禱による治療を主さどる〕—ケンタウルス $\psi \cdot \chi$ 。
- 108 心宿₃ ところ。むね。心臓。二十八宿の第5宿。青竜の心臓にあたる。(中央の大星が天子、その右・左は太子と庶子にあたる)〔天下の賞罰を主さどる〕—蝸 $\sigma \cdot \alpha$ (Antares)・ τ 。
- 109 積卒₁₂ 兵士の集団。(五營軍の兵士の象徴)〔護衛を主さどる〕—ケンタウルス $\theta \cdot \eta$ /狼 $144 \cdot 151G$ (藪)。(つづく)